

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課	
施策	22	商業・サービス業の振興	評価 責任者	及川 隆	内線 3710
小施策	22-1	魅力ある商店街の形成支援	評価 シート 作成者	高橋 久幸	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・景気回復の兆しが見られるものの、「まちの顔」である中心市街地をはじめ、各商店街、市全体の卸・小売の年間販売額や従業員数などが減少傾向にあることから、大型店や量販店にはないサービスや地域の特性を生かした魅力ある商店街や個店づくりにより、商店街の集客力を維持向上させる必要がある。また、岩手医科大学附属病院の移転後の跡地活用について、市民や商工関係者の関心が高まっていることから、中心市街地の活性化を検討する必要がある。</p> <p>・高齢化の進展と相まって、地域によっては、徒歩で行くことができる距離に商店がない、あるいは、買い物に行くための手段がないなど、買い物の利便性が低下している地域があることから、地域や事業者と連携して対応する必要がある。</p>	<p>中心市街地の活性化に向けて、関係機関と連携しながら、来街者の増加などを図る取組を推進するほか、市域全体では郊外型大型店の進出や多様化する消費者ニーズに対応した、魅力にあふれた活気のある商店街づくりを推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
<p>商店街</p> <p>商店街等の団体</p>	<p>商店街ににぎわいが創出される。</p> <p>魅力にあふれた活気ある商店街づくりに取り組む。</p>

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 中心市街地の年間小売販売額				単 位 百万円	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	68,272	R1目標値	71,700	R6目標値	75,100
・中心市街地の年間小売販売額は逡減傾向にあるが、前年水準を維持しており減少に歯止めがかかっている。				・商店街による研修会が前年より多く開催された。(補助5件, 前年度3件) ・商店街への補助を通じて小売業の振興を図った。 ・空き店舗出店に係る補助金が活用され、中心市街地の商店街に新しい店舗が入った。(補助8件)	
指標② 中心市街地の歩行者・自転車通行量				単 位 人	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	48,332	R1目標値	52,300	R6目標値	53,000
・中心市街地の店舗が、小売業から飲食、サービス業に業態変化しており、この流れに歯止めがかかっている。				・消費者が郊外大型店舗などへ移っていることやインターネット環境の普及による無店舗型小売業の増加の影響が考えられる。	
・中心市街地の店舗が、小売業から飲食、サービス業に業態変化しており、日中の通行量が減少する流れに歯止めがかかっている。				・屋間の来街が見込める小売に係る顧客は、郊外型大型店舗に流れており、中小規模の企業が多い小売業は、来街者が減少傾向にある中心市街地で営業するには厳しい環境であるとともに、撤退後の店舗の後には比較的資金力があるチェーンの飲食店が出店している。	
・観光客入込数は増加しており、交通の利便性に繋がる基盤整備事業やソフト事業の実施による一定の効果は見られるが、年間を通した通行量の増加にいたっていない。				・自転車を利用する若い年代にとって、中心市街地を訪れる動機付けとなる魅力が低下している。	
問題点				問題の要因分析	

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ 各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、補助制度は必要と考えられるが、市としても各事業の内容について十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。</p> <p>★ 平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、令和元年度末に運用開始予定の「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に沿って、関係団体が相互に連携し、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成に取り組む。</p> <p>★ 引き続き商店街等が実施するイベント等への補助を行い、商店街への来街促進の取り組みを支援する。</p> <p>★ 中心市街地の商店街・個店の新たな魅力発信に向けた効果的な支援策について、各商店街へのヒアリング等を通じて検討を進める。</p> <p>☆1 商店街の課題やニーズに合った研修会等の開催を支援することで、商店街の魅力強化を図るほか、研修会等を開催していない商店街の補助の活用を促す。</p> <p>☆2 事業承継に向けた取組を支援するため、商店街が実施する研修会等の際に相談窓口等の周知を図るなど、機会を捉えて働き掛けるほか、金融機関や支援機関と連携した取組について協議し、実施していく。</p> <p>☆3 市が事務局を担当する実行委員会事業について、市が担うべき役割を見直し、スクラップ&ビルドを行う。</p>	
<p>★ 各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、補助制度は必要と考えられるが、市としても各事業の内容について十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。</p> <p>★ 平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、令和元年度末に運用開始予定の「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に沿って、関係団体が相互に連携し、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成に取り組む。</p> <p>★ 引き続き商店街等が実施するイベント等への補助を行い、商店街への来街促進の取り組みを支援する。</p> <p>★ 中心市街地の商店街・個店の新たな魅力発信に向けた効果的な支援策について、各商店街へのヒアリング等を通じて検討を進める。</p> <p>☆1 商店街の課題やニーズに合った研修会等の開催を支援することで、商店街の魅力強化を図るほか、これまであまり研修会等を開催していない商店街の補助の活用を促す。</p>	